

全世帯対象

保存版

2024年最新情報

補助金でお得におうちの省エネ化! リフォームするなら今がチャンス!



**住宅省エネ2024
キャンペーンが
はじまりました!**

今年も「国土交通省」「経済産業省」「環境省」3省連携による「住宅省エネキャンペーン」補助金事業がおこなわれます。住宅の断熱性向上や高効率給湯器の買い替え・支援にかかる費用を一部補助する制度です。省エネに関わるリフォームをするなら今がチャンスです。この機会をお見逃しなく! 補助金の交付には条件があります。まずはお気軽にご相談ください。

子育てエコホーム支援事業

リフォームで最大**60万円**補助

※住宅のタイプおよび世帯の属性などで最大額が異なります。

Q 現在、子育て中
ではありません。
申請できますか?

A 子育て中でない方も
申請できる補助金です
諸条件があります。
詳しくはお問い合わせください。

省エネ改修(いずれか必須)

- ①開口部(ドア・窓)の断熱改修
- ②外壁・屋根・天井または床の断熱改修
- ③エコ住宅設備の設置

必須工事と同時に行う場合のみ対象(任意)

- ④子育て対応改修 ⑤防災性向上改修
- ⑥バリアフリー改修 ⑦空気清浄機能・換気機能付きエアコン設置
- ⑧リフォームの瑕疵保険等への加入

→1申請あたりの
補助額合計が
5万円以上で
補助対象になります

補助金
交付例

対象の工事が含まれる
リフォームで
補助金がもらえます!

※交付対象の詳細はお問い合わせください。

対象工事

キッチン リフォーム	節湯水栓 ¥5,000+
	ビルトイン食洗機 ¥21,000+
	掃除がしやすい レンジフード ¥13,000+
	ビルトイン自動調理対応 コンロ ¥14,000+

対象工事

浴室 リフォーム	外窓交換 ¥17,000+
	高断熱浴槽 ¥30,000+
	節湯水栓 ¥5,000+
	手すりの設置 ¥5,000+
	廊下幅の拡張(ドア) ¥28,000+
	浴室乾燥機 ¥23,000+

対象工事

洗面台 リフォーム	節湯水栓 ¥5,000+
合計 16.6万円 補助金交付	

先進的窓リノベ2024事業

最大**200万円**補助

※制度の適用には
条件があります

Q 1戸あたりの
補助金上限は
いくらまで?

A 1戸あたり
上限200万円です。
断熱性能と窓のサイズにより
補助額が変わります。

住宅の開口部(窓)におこなう断熱改修(リフォーム)が補助対象です。*断熱性能の要件があります。

ガラス交換



既存窓の
ガラスを
交換*

内窓設置



既存窓の
内側に
新たな窓を
設置*

マンションにおすすめ

外窓交換

既存窓を取り除き
新たな
窓に
交換*



ドア交換 (窓と同一契約で対象)



断熱性の
高いドアに
交換*

勝手口も
補助の
対象に
なります!

→1申請あたりの
補助額合計が
5万円以上で
補助対象になります

給湯省エネ2024事業

省エネ給湯器への交換で補助金が交付されます。*要件あり

Q 対象の
給湯器は?

A エコキュートやハイブリッド
給湯器、エネファームなどです。
*性能要件を満たしたものに限りです

製品の性能と
機能により
それぞれ定額で
補助されます

基本額	エコキュート	8万円/台
	ハイブリッド	10万円/台
	エネファーム	18万円/台

台数	いずれか
戸建	2台まで
集合住宅	1台まで

おすすめ省エネ給湯器
Rinnai エコワン
(ハイブリッド給湯器)



補助金 **¥150,000**

←高い省エネ要件を満たす
給湯器は最大15万円

賃貸集合給湯省エネ2024事業

賃貸物件のオーナー様向けの補助制度です。
詳しくはお問い合わせください。

対象の給湯器: エコジョーズ・エコフィール

補助額: 追焚きなし **5万円/台** 追焚きあり **7万円/台** 1住宅1台まで

住宅省エネキャンペーンはそれぞれ、**予算、補助対象、補助額(補助上限)、交付申請期間**の決定事項があります。
利用されたい補助金毎に予算が異なるためリフォームをご検討中の方はお早めに、まずはお気軽にご相談ください。

ウラにも
補助金あります!

V2H (Vehicle to Home) 充放電設備補助金にも注目!

Q. V2Hってなに?

A. 「Vehicle to Home」の略。「クルマから家へ」という意味で、電気自動車 (EV) やプラグインハイブリッド車 (PHEV) のバッテリーに貯めている電力を自宅で使えるようにする機器です。(システム例を参照)

Q. 住宅用蓄電池との違いは?

A. 住宅用蓄電池もEVも、貯めている電力を家に放電して使うことができます。*住宅用蓄電池は定置型のため、家庭内のみ電力供給が可能です。一方でEVは移動先でも電気の使用が可能です。またバッテリーの容量は住宅用蓄電池が10kw前後なのに比べ、EVの場合は20~70kwhと大容量になっています。
*EVを蓄電池として使うには「V2H充放電設備」が必要です。

V2Hのメリット①
太陽光発電と
連携できる!

昼間、太陽光発電で発電した電力をV2Hを使って充電。クリーンな電力でエコドライブを実現します。

V2Hのメリット②
災害・停電時の
トラブル回避

災害などの停電時に車に蓄電された電力を取り出して利用できます。家庭用蓄電池を併用すればさらに安心です。

V2Hのメリット③
電気代の節約

夜間の安い電力や太陽光などの電気をEVに充電し、それを家に放電することで電気代の節約になります。

システム例

V2H充放電設備を使ってEV・PHEVと太陽光発電・家庭用蓄電池を連携させるシステムです。通常時はもちろんのこと停電時にもEV・蓄電池から電力が利用でき安心です。



*既存の太陽光発電の利用をご検討中の方はまずご相談ください。 V2H充放電設備

V2H充放電設備の補助金は2種類

① 経済産業省からの交付

最大115万円 補助

*制度の適用には条件があります
大変人気のため予算の早期終了が予想されます

② 自治体からの交付

岡山県・岡山市 最大15万円 補助
倉敷市 最大10万円 補助

*その他、自治体で補助金額は異なります
制度の適用には自治体ごとに条件があります

! 補助金には交付条件、申請受付期間があります。また、予算がなくなり次第受付を終了します。

交付申請には条件があります。詳しくはお気軽にお問い合わせください。
申請受付期間: 2024年3月末(予定) 予算総額: 50億円 予算がなくなり次第受付を終了します。
前回は1ヶ月程度で予算満了となりました。今回も同様に早期満了が予想されます。
ご検討中の方は今すぐお問い合わせください。

